

イベント  
レポート1

# 「平成20年度 宮崎市防災フォーラム カエルキャラバンみやざき」開催

宮崎市防災フォーラムは、平成7年1月17日に起きた阪神大震災を機に制定された「防災とボランティアの日」に合わせて、平成16年度から開催されています。5回目を数える今回は、1月10日(土)に宮崎市民文化ホールと隣接する花山手「大坪池公園」、宮崎市総合福祉保健センターの3会場で開催されました。当日は、時折強風が吹き、一部実施できない野外プログラムがありましたが、500名を超える市民の方々にご参加いただきました。

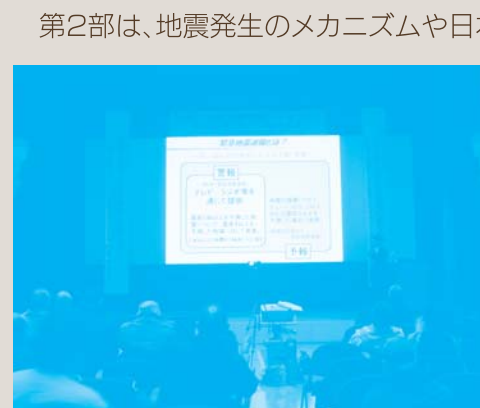
## 宮崎市民文化ホール会場

第1部にNPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク事務局長李仁鉄氏による「そっと寄り添う災害時のボランティア活動」、第2部に宮崎地方気象台地震津波防災官松田健助氏による「地震・津波と緊急地震速報についてー地震に対する備えー」の二部構成で、講演会を行いました。



第1部講演会の様子

第1部は、平成16年に新潟県三条市で起きた「7.13新潟水害」での被災をきっかけに災害ボランティア活動にかかわり、平成16・19年と相次いで発生した新潟中越沖地震と、能登半島地震災害ボランティアセンターの運営スタッフとして参画した李講師の経験を踏まえ講演されました。被災による物理的・肉体的・精神的な困難を抱えながらも、自らは「助けて」と言えず、支援を拒む傾向が見られます。これに災害ボランティア活動は情熱と冷静な判断力で、相手の求めるものを見極める力、足りない技術や知識をカバーするほんの少しの心配りが大切です。そのためには、寄り添い小さな声に耳を傾け、声にならない声や思いを感じる必要があるとのことでした。



第1部講演会の様子

第2部は、地震発生のメカニズムや日本の周囲にひしめき合うプレートの存在などの紹介で、講演が始まりました。地震発生の予知が不可能な現段階では、これまでの知識やデータからある程度、地震発生の予測はできるとのことでした。近年、発生が危惧される日向灘では、マグニチュード7規模の地震が10年以内で30~40%、20年以内で50~60%、50年以内では90%の確率で予測されているそうです。

地震発生は止められない、被害を最小限にするために、日頃の心構えが大事とのことでした。そのためには、平成19年10月から開始された緊急地震速報を適切に活用し、状況に応じた

対応をするように呼びかけられました。

会場では、講師からの事例紹介や提案を熱心に聞き入り、折々頷く姿やメモを取る姿が見られました。

## 大坪池公園会場

水消火器でカエルのマトをひっくり返す「水消火器マト当て」やジャッキで丸太を持ち上げる「ジャッキup」など、防災や減災についての「技」「知識」を楽しみながら習得する参加体験型プログラムを行いました。ゲーム感覚で消火器やジャッキの使い方を体験することで自然に学んでいました。このほか、宮崎市消防局と日赤宮崎県支部の協力企画が行われ、宮崎市消防局では、火災や地震の疑似体験をする煙体験ハウスや起震車体験、赤バイクの展示・乗車が行われました。日赤宮崎県支部では、AEDの操作方法や成人・乳幼児の心肺蘇生法の講習会が行われました。



## 宮崎市総合福祉保健センター会場

おもちゃの交換「おもちゃのかえっこ」をメインに、おもちゃ病院みやざきによる「臨時おもちゃ病院」の開院や宮崎地方気象台による「気象のおはなし」などを行いました。

「おもちゃのかえっこ」では、参加者から寄せられたおもちゃを、プログラムに参加・体験でもらえるカエルポイントを使って、かえっこ(交換)がおこなわれました。「気象のおはなし」では、組み合わせたペットボトルや特殊な機器を使って気象について学びました。また、途中会場に訪れた気象台のマスコット「はれるん」に、多くの人の輪ができました。



今回の防災フォーラムでは、災害時救援ボランティアコーディネーターみやざきをはじめ、宮崎地方気象台、日本赤十字社宮崎県支部などのご協力で実施しました。各々、災害に備えた平常時の災害研修・訓練の成果や企画を通して防災・減災活動への意識向上や啓発活動につなげていただきました。いつ起きるか分からない災害に備える心を持つことも重要です。